

令和7年度第2回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会 会議録

| | |
|------------------|---|
| 日時 | 令和7年12月16日（火） 午後3時～午後4時 |
| 場所 | 旭川市彫刻美術館 研修室 |
| 出席者 | <委員> 西村徳清、中村聖司、山下真実、岩永啓司、佐藤公哉、南部正人、 村田典子、間藤洋子 <彫刻美術館> 坂本文化振興課長、南雲彫刻美術館長、山崎彫刻美術館主査 |
| 会議の公開又は 非公開の別 | 公開 |
| 傍聴者数 | 0人 |
| 会議の内容 (議題) | 1 旭川市彫刻美術館の観覧料の改定について 2 その他について 以下の会議録のとおり |
| 会議資料 | 使用料・手数料の見直し案（抜粋）（P D F） |

【会議の内容】

1 開会

2 文化振興課長挨拶

以下、会長の進行により、議事を審議する。

3 議事

（1）議事1 「旭川市彫刻美術館の観覧料の改定について」

事務局から、議事1 「旭川市彫刻美術館の観覧料の改定について」について、説明を行った。

●会長

事務局から彫刻美術館の観覧料の改定について説明があったが、質問や意見はあるか。

●委員

一度上がったら、下がることはないのか。下がったことはあるのか。

●事務局

4年に一度全序的に見直しを行っている。彫刻美術館は下がったことはない。

●委員

この資料を見ると、人が多く来る施設は下がっているようだ。

●事務局

設備や投資の部分で、ある時期はコストが掛かるが、それが終了すると、そのコストは掛からなくなるので、下がるという可能性はある。

彫刻美術館は、掛かっているコストがほぼ固定しており、いろいろなものが値上がりしているため、光熱水費や人件費等の経費が積み上がっている。

●会長

資料の一覧を見るとそれぞれ上がっているなど感じる。年間パスポートは、改定後は1,000円を超えるので、今まで安かった分、体感的には上がったなど感じる。

●委員

料金が上がるのを避けられないとして、来館者数を増やす手立てを検討しているはあるか。

●事務局

一つの取組として来年度に「美術館クラブ」という事業の実施を検討している。現在、館内の展示室でフロッタージュ（凹凸のあるもの上に紙を置き、鉛筆などで擦るように描くことで、対象の凹凸や形状を写し取る技法）等を体験できるコーナーを設置しており、地域の小学生が来館して体験している。館としては、小中学生にもっと来てもらいたいと考えている。次年度以降は、美術館をどうやって地域の人に伝えていったらよいかを検討、実施して来館者増につなげていけたらと考えている。

●会長

この料金の決め方で言うと、来館者が増えると彫刻美術館に何かしらプラスアルファになる要素はあるのか。来館者が増えると彫刻美術館の予算が増えるのか。

●事務局

来館者が増えたからと言って、彫刻美術館の予算が増えるわけではないが、観光客が増えれば、全国的に注目されているという評価に繋がるので、発言力は増すのではないかと考えている。

職員の数も限られており、あれもこれもという訳にはいかないが、現在の来館者数でいいと思っている職員はない。優れた彫刻作品がたくさんあるので、多くの人に見てもらいたいと考えている。

●委員

1.5倍の上限額は何に基づいて決められているのか。

●事務局

料金が値上がりする場合の激変緩和措置として、改定前の1.5倍を上限とする自治体が多かったことから、本市でもそれを参考にしている。

●委員

施設の団体人数は、すべて20人以上となっている。施設規模で言うと、博物館のような大きな施設は20人以上でもよいと思うが、面積規模も踏まえて考えると、彫刻美術館の場合は10人以上でもよいのではないかと思う。

●事務局

団体の取扱人数を20人以上ではなく、10人以上に引き下げるということも検討するべきではないかということか。

●委員

高校等の美術部がどんどん縮小している現状を踏まえると、20人を集めるのは難しくなってきている。現在の社会情勢の実態に合わせるのも必要ではないかと思う。

●事務局

それについては、御意見として承る。

●委員

市民は税金を払っているので、市民と市民以外で料金を分けるのは、緩和措置というか値上げの印象を少し和らげられるのではないかと思う。負担感があることを考えると、市民の負担を抑えるというのは印象としてはよいのかなと思う。

先日、東京の美術館の展示を観覧したのだが、大規模な展覧会ということもあり、一般料金が2,000円で、大学生が1,000円であった。一般の大人とそれ以外の人たちとで、料金を分けるというのは、ここでも工夫できることだと思った。

●委員

東京の美術館の観覧料の話があったが、日本は文化の受益者負担が低く見られている風土があると感じる。制作サイドでも、それが問題じゃないかということで話題になっている。海外に行くと、美術館の料金はもっと高く設定されている。学生の展示や一般市民の展示のように、日本で美術を観ようすると、無料で観られることがいつも価値の判断基準にあると思う。そのため受益者負担という観点に立ったとき、適正な対価を払って観るということは大事なことだと思う。消費者教育にも繋がっていくと思うので、一概に料金を高くするのは、後ろ向きなことではないと思う。

料金設定が高いと観覧者が増えないということでもなく、高いと何があるのだろうと考える面もあると思う。彫刻美術館は、国内でのその時々の優秀な作品をコレクションしているところであり、建物も重要文化財を使用して運営している。高い料金設定であっても、市民と道外や海外から訪れる人とでは、価値の判断基準や価格設定が違うし、逆に料金設定が低すぎると行く価値がないのかと思うので、マイナスプロモーションになるのではないかとも思う。

●委員

彫刻美術館でボランティアとして関わっているが、中原悌二郎の作品を観るために全国各地から来た方から、「こんな料金でこの素晴らしい建物と素晴らしい作品が観られるとは。」

という声があった。一市民としても、多少高くてもいいし、彫刻を観るために遠くから来られる方には、もう少し高く設定してもいいのではないかと思う。

●委員

市外と市民の方で料金を分けることはよいと思う。他の市町村の施設を利用したときに、旭川市民として行っているので、もちろん対象にはならないが、この町が何を大事にしているかが、そういうところで伝わってくるので、よいのではないかと思う。

●事務局

市民以外の料金を設定している施設は、旭山動物園がある。

●会長

動物園は市外の来園者が多いと、それだけ実入りが多くなるし、市民割引というよりは、外部を上げるという発想ではないかと思う。

●委員

その上がった分の付加価値というか、上がる前と上がった後の違いが、値上がりの金額の中に入っていないと、何か損したような気持になりかねないと思う。上がったら上がったなりの、前とは違う何かがこの美術館の中にあり、来た方が感じ取ってもらえたるすごくいいのかなと思う。

私自身も彫刻美術館に何度か来ているが、展示している作品のことについて、誰かと話をして帰ったら、すごく楽しいだろうなと思うこともあり、何か作品のことについて気軽に語り合うことができる企画や機会があっても面白いと思う。

●委員

値上げをして、活動が何も変わらないということに対しての市民感情は、すごく大きいものだと予想できる。たぶん値上げしたからといって、変わるために予算が付くわけがないので、科学館や井上靖記念館、動物園など、値上げをする全施設と連携イベントを行うといいのではないかと思う。何も変わらなければ、お客様は納得しない気がする。

●会長

今の話はすばらしいなと感じた。彫刻美術館に期待している人がたくさんいると思うので、料金改定をよい機会に変わっていただけたらと思う。

●委員

彫刻美術館を人に紹介するときに、全国の美術館の中でもこれはすごいというところは何か。特に海外から見て、この美術館は特にこれがすごいとうものは何か。

●委員

中原悌二郎賞受賞者は、「ここは我々の聖地だ。」と言っている。それぞれ孤独に制作している作家たちの心の故郷というか、そう感じるぐらい全国規模の賞を設定している美術館なので、彫刻家の中では有名であり、十分通用すると思う。

●委員

すごくニッチなところには刺さるというか、極めている人には、航空費をかけて旭川まで観に来たいと思うような場所か。

●委員

全国規模で賞を設定している美術館は数が限られると思う。彫刻美術館は、戦後から近代彫刻が展開していく流れを踏まえ、有名な作家の作品が網羅されているので、そういうところでもっとアピールできるのではないかと思う。

●事務局

いただいた御意見を事業に反映できるよう努める。

(2) 議事2 「その他について」

事務局から、議事2「その他について」、以下、2点について説明を行った。

- ・第44回中原悌二郎賞贈呈式及び記念講演について
- ・令和7年度の彫刻美術館の入館者数について

4 閉会